

みつくら

令和 4年 6月15日 第364号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大瀬川婦人会が解散

令和3年度大瀬川婦人会（菅原秀子会長、会員33名）総会が4月13日に書面議決によって行われ、大瀬川婦人会の解散が決議された。解散総会における決算報告では、残金が40,721円発生したが、33名の会員に1,000円ずつ返し、残った7,721円は花巻市社会福祉協議会石鳥谷支部へ寄付した。

大瀬川婦人会の沿革は、昭和8年に大瀬川国防婦人会として発足したのが始まりで、当時の活動は出征者の送迎、傷痍（しょうい）軍人や遺家族の扶助などのほかに防空演習も行っていた。発足時の役員名は記録が残っていないが、昭和16年の大瀬川愛国婦人会長は板垣エナ（今坂家）さんであった。終戦（昭和20年）とともに大瀬川愛国婦人会は解散し、同時に大瀬川婦人会が設立され、この時も引き続き会長に板垣エナさんが選ばれている。

昭和48年には、生活合理化運動が盛んになり、大瀬川婦人協議会と名称を変更し、その組織下に婦人部を置いている。さらに平成3年には、大瀬川公民館婦人部と名称を変更し、公民館活動の中に組織化されて活動を続けてきた。平成20年には、大瀬川公民館が廃止されたために、再度大瀬川婦人会に名称を変更している。

時代の流れと、会員の減少によって解散を余儀なくされ、89年間の活動に幕が下ろされた。

俳優の菅原さんが8週にわたって出演中

NHKBS3の「大岡越前6」で且乃花家の菅原洋美さんは5月13日（毎週金曜日夜8時）からの8週間にわたってテレビに出演しているのでご覧いただきたい。第1話で菅原さんは、千両箱を巡る諍いに首領団の幹部として出演していた。当日の出演者は東山紀之、勝村政信、寺脇康文、美村里江、近藤芳正、高橋光臣、田中健、堤大二郎などであった。

菅原さんは近年BS時代劇「小吉の女房」（NHK BSプレミアム、全8話）、NHKBSプレミアム「柳生一族の陰謀」、NHKBSプレミアム「大江戸もののけ物語」にも出

演している。

ドローンでの除草剤散布

農業人口の減少や農業者の高齢化を背景にAI、ドローンなどの先端技術を活用し、省力化や高品質生産等を可能とするスマート農業の導入が注目されているが、大瀬川で最初にドローンでの薬剤散布を行ったのは、平成30年8月に菅原榮一さんが稲熱病防除で散布したのが始まりである。

5月7日、大瀬川12地割にある熊谷和紀さんの約1町2反歩の水田では、ドローンによる除草剤の散布を実施した。散布業者は5月1日から大瀬川12地割2231番地の1に事務所を移転したプロサポート（阿部隆成代表）で、散布料金は反当たり1,500円から。ドローンによる農薬や肥料の散布の他に、赤外線カメラによる夜間捜索支援サービスや産業用ドローンの販売代理店としても営業をしている。

これから基盤整備事業を見据え、大瀬川の農業も持続可能な農業のあり方を模索する時代だ。

菅原さんが「第九の会」でステージに

南田家の菅原智子さんは、花巻第九の会「テラ・ムジコ」の一員として練習に励んでいて、5月15日に花巻市文化会館で行われた第1回定期演奏会に出演した。コロナ禍のために入場者を制限する中、400人の観衆が大きな拍手を贈っていた。岩手日報と岩手日日新聞にも大きく掲載されたが、いずれにも菅原さんのステージ姿が写っている。

菅原さん達の「テラ・ムジコ」は、当初令和2年に開催予定だった東北農管弦楽団第7回定期公演に出場のために結成されたが、あいにくのコロナ禍で延期の後に中止となり出番が無くなった。しかし、東和町土沢振興センターを拠点に、紫波町立中央公民館やオガール・プラザで月に3回の練習を積んで迎えた当日の演奏会は、第1部ポラーノの広場で「テラ・ムジコ」合唱団のオリジナルの歌（精神歌、イーハトーブの風、銀河鉄道999、ハピネス、群青など）が披露され、第二部はゲスト出演者の名曲ステージ、そしてフィナーレの第3部は、ベートーベン交響曲第九番ニ短調第4楽章「歓喜の歌」が披露された。「テラ・ムジコ」合唱団は、白のブラウスと黒のスカートで揃いの衣装が映えていた。合唱団30名の他に一般からの出演者17名、それにゲストや高校生も加わり総勢57名で音楽を知らない筆者も感動で目頭が熱くなった。

聴衆の中には大瀬川から南田家の親族や、地区民など少なくとも12名は確認できたが、まだいたかも知れない。

当日の菅原さんは、会場係と進行係を担当しながらも、ゲストの方々の首からかける「レイ」の折り紙を、一人で10人分を自宅で作ったという。

2年続いて「さなぶり」なし

去る5月22日9区自治公民館（熊谷武忠館長）では、葛丸川河川敷の草刈りと公民館付近の花植を38名が参加して行っ

た。熊谷館長から「今年も、コロナ感染の収束が見えず、残念ながらさなぶりができませんので各家々でお願いします。また、雨模様なので草刈り時は、怪我のないよう安全作業でお願いします」と挨拶があった。

雨模様の中、男性陣は河川敷の草刈りを行い、女性陣はサルビア・マリーゴールド・ペゴニアの苗370本の花植を行った。また、同時に空き缶回収も行っている。

畦畔一斉草刈りが始まる

6月1日から葛丸の農村環境を守る会では、畦畔一斉草刈りが始まった。初日には29人、6月2日は31人、6月3日は29人、6月4日は35人、6月5日は56人と次第に増えている。期間は6月1日から7月31日までの61日間で作業時間は8時30分から16時30分まで、点呼場所は大瀬川振興センター入口となっている。

作業日当8000円と草刈り機2000円、燃料800円を支払う。会では「夏場の作業なので健康管理と安全作業にくれぐれも注意を払って頂きたい」と話していた。なお、令和3年度は延べ1150人が出役している。

盛岡和賀線の歩道工事が始まる

県道盛岡和賀線の歩道工事は5月初めから始まっている。丁張の様子から北端部分の30mほどに丁張りが掛かっていることからT路路まで繋がらないのではないかと岩手県に問い合わせたところ、最終の工事までには接続になるとのことであった。

現在進めているこの歩道工事は、令和3年度の予算で遠野市宮守の（有）アイテックが施行している。

同社は県道東側の農道の土盛り工事が主で、それも予定の高さにはならず、8月末までの工事期間というが、令和4年度は秋頃にもう一度発注し、工事の進捗を図るとのことである。

経年劣化でパイプラインの破損が多発

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員372名）では、4月から5月にかけて南野原地区のパイプライン修理が9件と多発している。これは、経年劣化によるものが殆どで、今後も増えるものと思われる。緊急を要するので、当会では何れも5月末までに修理を終えている。

葛丸川淡水魚愛護組合からお知らせ

葛丸川淡水魚愛護組合（菅原昇組合長）では、新型コロナウイルス感染拡大のため、毎年恒例の大瀬川釣り大会の開催を2年間中止しておりましたが、今年は6月26日（日）に開催致します。

場所は、山祇神社周辺で朝5時受付、6時から8時までのニジマス釣り大会です。子供達を含めた多数のご参加をお待ちしています。

みつくら

令和 4年 6月15日 第364号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

3区で集落総会と環境保全研修会

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長）では5月31日に大瀬川振興センターで19名、6月2日は7区自治公民館で20名、3日には稲豊自治公民館に14名の参加で集落総会と研修会を行った。全体総会では各地区の運営委員による書面議決が賛成多数で可決しており、集落総会では構成員に対して説明と質疑や要望を受けている。

今会では最初に令和3年度事業報告並びに収支決算の説明と監査報告を行い、続けて令和4年度の事業計画並びに収支予算についての説明の後質疑応答を行なった。

総会後、環境保全研修としてDVDによる「獣害対策と予防」について実施した。中でも特に被害が多い猪の侵入防止柵の張り方や、電気柵の効果、他にも猪の生態や習性などを知ることが出来た。猪はミミズを食べるために土を掘り起こすものと考えていたが、ミミズはついでに食べているだけで、実は植物の根（特に芋状の根）を食べているとのことだった。映像では葛やヤマモ、チガヤなどの根茎などを食べるために土を掘っていた。猪の鼻の力は非常に強く、60kgの体重の猪は70kgを持ち上げる力があるというのだから砂利道を掘ることなど容易だそう。猪は一回の出産で4～5頭が生まれ、2年で出産年齢になるため、鼠算ならぬ猪算で数が増えるという。特に7区では被害が非常に深刻で、予定時間を押して詳しい内容での上映となった。

上映後、「大瀬川でも猪被害に悩まされているが、防護対策のみではなく、狩猟による頭数の減少を目指す必要があるのではないか」との意見も出るなど、関心が高いだけに有意義な研修会となった。

このDVDは「会で購入したので事務局に連絡頂ければ貸し出しもする」と説明があった。

2ヶ所の道路舗装が決まる

大瀬川活性化会議では、毎年市に対して施設要望を提出しているが、数年ぶりに実施が決まった。

中谷地家の板垣美智子さんは、測量をしていた方に「何を

しているの？」と尋ねたところ「今度舗装するための測量です」とのこと。その道路は、九口竈家から中谷地家までの「市道大瀬川36号線」で15年間の要望が実ったもの。

総合支所に問い合わせたところ、大瀬川では他にもう1ヶ所あって、市道大北線の舗装補修工事とのこと。この道路は現在、大瀬川で一番破損が大きくて主要道路なのでもっと早く優先すべきと思われる道路であった。

いずれにしる、地区にとっては有り難いことである。

みんなで草刈りを実施

下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、第一回となる草刈りを6月4日に実施した。今回は、主に幹線道路脇の草刈りを重点に38名が5班に分かれての作業となったが、幹線道路沿いの地主による草刈りが既に行われている箇所もあり、予定時間より早く終了となったため、後日予定していた好地堰付近の草刈りの一部まで行い午前中で終了した。

猪の被害が多発

今年になって大瀬川の猪被害が多発している。菅原巖さん宅北側の市道林線付近が掘り荒らされていると聞き行って見ると、農道が崩落するほど大きく破壊されていた。掘り荒らした穴の中には、食べ物となる植物の根が残されていた。

後日、今度は県道13号線を越えた田植え後の水田が猪に荒らされたと聞き現場を確認したところ、なぜか一枚目の水田を漕いでその下の真ん中の部分の早苗がだけが踏み荒らされていた。ここも電気柵対策は行っていないなかったが、その後の足跡を見ると畦畔の草を刈っていない所を選んで歩いている形跡もあった。臆病で警戒心が強い猪の被害を防ぐには、道路や畦畔の草刈りを行う事が有効ではではないだろうか。

環境整備と花植えを行う

去る6月5日に第7区自治公民館（菅原清孝館長）では「環境整備作業」として公民館敷地内の草取り・草刈り、桜の枝処理、ふれあい花壇の花植えを実施した。輪番制により今回は3班の13名でマリーゴールドのオレンジ色と黄色を各100本、ザハラホワイトインプ（百日草）とブルーハワイ（アゲラタム）も各100本の400本を植えた。

花植えの準備を菅原館長が事前に行なっており、1時間程で終了し花壇の前で写真撮影後、お茶を頂き解散した。今年も、大きな花が咲くのが楽しみだ。

板垣さんの写真展を鑑賞

七人会（熊谷善志会長）では、6月3日に会員の板垣弘清さんも出展した「2022フォトイズム写真展」を鑑賞した。会場はプラザおでって（盛岡市中ノ橋）で板垣寛さん、熊谷律夫さん、菅原榮一さん、熊谷善志さん、熊谷政男さん、菅原得之さんの6人であった。フォトイズム写真展は毎年盛岡市で開催し15人の写真作品60点が展示されていた。

その内、板垣弘清さんの写真は「黄昏の我が家」（西和賀町で撮影）、「古民家を守る」と「雪原の待春」（いずれも同秋田県仙北市）、さらに「樹氷物語」（同秋田市）の4点が出展されていた。鑑賞には板垣さんが自ら案内して解説していただいた他に、それぞれの写真家を呼んでくれて直接説明をいただいたので、楽しいひと時を過ごしてきた。

運動公園の環境整備は7区が担当

晴天の6月4日の朝、7区の担当で大瀬川運動公園及び盛岡和賀線チェーン着脱所の草刈り、草取り、ゴミ拾い等を35名が参加して実施された。今年は、草の伸びが早かったのが、草の量も多く、7区区長の畠山幸男さんが手配した軽トラ、トラック4台で3～4回も運び、作業時間も6時から7時30分まで行ない、皆さん本当にお疲れ様でした。

訃 報

○久助家の辻村卓子さんは、5月17日に74歳で亡くなりました。辻村さんは、紫波町佐比内のお生まれで、久助家に嫁いではご主人が農協に勤務していたこともあって、農業に精一杯働かれた方でした。しかし、辻村さんが46歳の時にご主人が病に倒れ、その後は女手一つで農業を守りながらご主人の看病をしていました。遺族の了解で書かせていただきますが、辻村さんは若くしてリュウマチと胃がん、肺がんを患って治療中に脳梗塞で倒れてしまいました。その治療のためにご主人の看病も難しくなりましたが、それでも昨年までは畑仕事や畦畔の草刈などをしていました。しかし、2度目の脳梗塞でこの度帰らぬ人となってしまいました。

火葬での喪主挨拶で辻村智さんは「母も苦しかった闘病から解放されたと思います」と母に感謝と労いの言葉がありました。「母の作った煮物の味は一番で、踊りも好きで盆踊りや町のお祭りなどが思い出されます」と悔やんでいました。

石鳥谷町保健指導員の他に地区婦人会の役員などで貢献されました辻村さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○仲朴田家の藤原邦雄さんは、5月26日に69歳で亡くなりました。藤原さんは、高校を卒業後東京のトリオ（後のケンウッド）に入社し設計方面を携わった後、郷里に戻り三菱電機の家電代理店を行いました。38歳の時に紫波町にある「宝製作所（現東北TKR）」に入社。退職時は製造部長でしたが直ぐに再雇用され昨年まで勤務していましたが、コロナ予防接種後に突然リンパ線が腫れて癌が見つかり治療中でした。

藤原さんは、気さくな方で怒った姿を見たことがなく、根っからの電気好きで土日も構わず働いて、「今、こんな新製品を製造してるんだよ」と笑顔で話していた事を思い出します。その合間にも、好友会会長を初め、9区自治公民館副館長や朴田納税組合長、大瀬川生産森林組合理事、消防団13分団第1部後援会監事など地区にも貢献されました藤原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。